

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	国際共同研究を通じたクリティカルアカウンティングの確立に向けた取り組み				
研究組織	代表者	所属・職名	経営情報学部・准教授	氏名	森 勇治
	研究分担者	所属・職名	静岡県立大学・客員教授 University of Essex Professor	氏名	Uddin, Shahzad
		所属・職名	University of Sheffield Professor	氏名	Jayasinghe, Kelum
		所属・職名	University of Essex Professor	氏名	Adhikari, Pawan
	発表者	所属・職名	経営情報学部・准教授	氏名	森 勇治

講演題目	
若手医師のワークライフバランスについて：日本における定性研究に基づく	
研究の目的、成果及び今後の展望	
<p><研究の目的> 医師、特に若手医師の過剰労働については世界的に問題となっている。兵庫県の若手医師の過剰労働が引き起こした悲惨な事件については国内外においても知られるところであるが、その分析は表面的なものに留まってきた。本研究では若手医師、管理者等へのインタビュー等に基づき、文化政治経済学の視点から分析を行う。</p> <p><研究成果> 研究結果として、階層的な権力構造、特に先輩後輩関係、自己犠牲、医局制度が長時間労働、無給労働、病院におけるキャリア管理を強化していることを明らかにした。多くの日本の大学でも見られるように、帰宅後の研究、学会への出張、調査研究等は自己啓発として捉えられ、当事者が仕事の内容や時間について異議を唱えることが難しくなっている。特に医局に所属する医師の場合には、職業選択の自由が限られており、キャリアの流動性にも制約が課されている。ワークライフバランスが制度的な方針と文化的な期待の双方から体系的に制限されていることから、現在取り組まれる制度改革の成果は期待できないものの、日本の医療制度を持続可能なものに変化させることは必要である。</p> <p><今後の展望> 本研究は2025年6月の the 4th Accounting and Accountability in Emerging Economies (AAEE) Conference で発表予定（採択済）である。本会議は非西洋における会計とアカウンタビリティについて取り扱い、the Journal of Accounting in Emerging Economies (Scopus Q1) のサポートを受けて実施される。この発表の後修正を加え、トップジャーナルへの投稿を準備している。</p>	